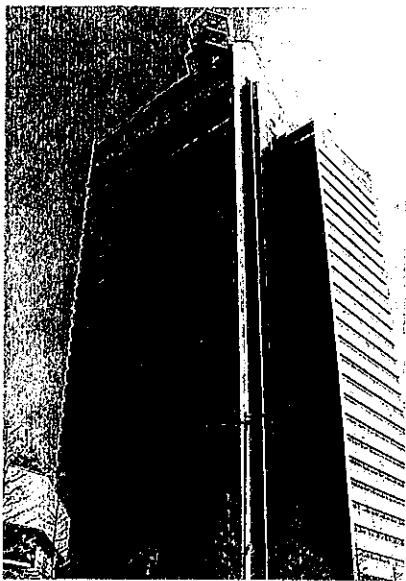


不動産投資信託「J-REIT」

# 物件取得 10件 337億円

## 東北・17年 仙台圏の取引好調

上場不動産投資信託「J-REIT(リート)」が2017年に取得した東北の物件数は10件、総額337億2000万円に上った。



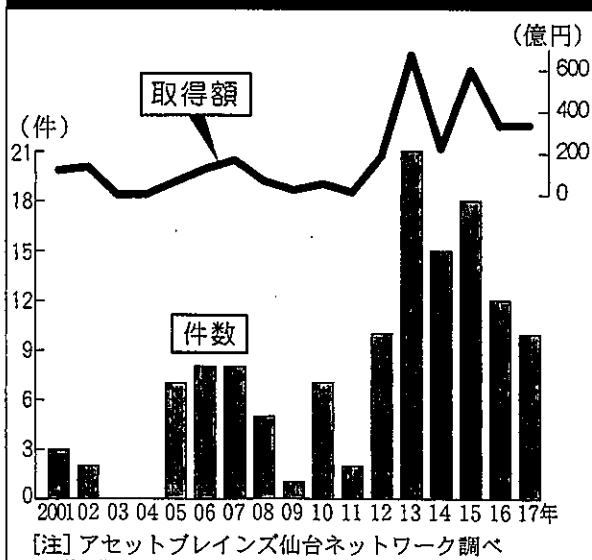
182億円で取引されたSS30＝仙台市青葉区中央4丁目

ことが、金融や不動産の専門家でつくるアセットブレインス仙台ネットワーク(仙台市)の調査で分かった。金額は過去3番目に多

くなった。

東北での取得件数と総額の推移はグラフの通り。県別の内訳は宮城が8件、311億9000万円、岩手が1件、13億200万円、福島が1件、12億3000万円。個別の最高額はSS30(仙台市青葉区)の182億円で、ユナイテッドアーバン投資法人(東京)が購入した。仙台市中心部の他の物件では、オフィスビルの仙台キャピタルタワー(青葉区)

J-REIT 銘柄が東北で取得した物件の推移



をMCUBS Midcity投資法人(東京)が55億円で取得。マンションのプロシード仙台上杉(青葉区)は、スターツプロシード投資法人(東京)が15億6000万円を買った。物流施設の取引も目立った。産業ファンド投資法人(東京)が、IIF仙台大

和ロジスティクスセンター(宮城県大和町)を14億8000万円で、IIF盛岡大和ロジスティクスセンターII(岩手県矢巾町)を13億2000万円で、それぞれ取得。大和ハウスリート投資法人(東京)は、Dプロジエクト仙台泉(泉区)を15億1000万円で買い取

った。

東北での取引は、東日本大震災後の復興需要などで伸びている。これまでの累計は126件、3007億2800万円。

アセットブレインスの佐々木正之事務局長は「首都圏の物件不足が地方都市への分散投資という形になり、東北でも表れている。仙台圏では10億〜20億円の物件の取引は順調に推移し、それ以下の物件との二極化が進んでいる」と話した。

J-REITは東京証券取引所の上場銘柄。不動産大手や大手商社による出資で投資法人を設立し、賃料などの収益を投資家への利回りに充てる。01年9月に初上場され、17年末までの取引総額は3615件、16兆6000億円。